快適で安らぎが漂うまち

都市は生きものと同じで成長いたします。ここで忘れたくないことは、時代がどんなに移り変わろうとも、都市は常に快適で安心して暮らせるステージでなければならないということであります。従いましてまちづくりの過程では、急務の課題解決のために即効性のある策を講じるとともに、将来に備えた布石が重要であります。

最初に、水害対策に関する施策であります。

昨年の三たびにわたる水害の特徴は、河川の水が溢れ出る「外水型」と違って、排水能力をこえる異常な降雨が要因の「内水型」であったことです。従いまして局所的に、特に荻川地区、本町四丁目一区、田家、中沢地区に被害が集中しました。改めて、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げる次第であります。

平成10年8月4日の水害
まず床上浸水の解消を

そこで今後の対策でありますが、まず荻川地区につきましては、調整池での対応を基本に据えた下水道雨水計画の推進を考えております。しかしながら、調整池の位置選定や信越本線横断樋管の改良などに時間を要しますことから、計画が達成されるまでの間の緊急避難的措置として小阿賀野川にポンプ排水することで、まず被災世帯の多かった荻川駅東側地区の床上浸水解消に努めてまいります。このため新年度におきましては、ポンプ場建設に向けての法手続きを進め、早期着工をめざす考えであります。

次に、本町四丁目一区、田家、中沢地区の対策でありますが、本地区につきましても下水道雨水計画の推進で対応してまいりたいと考えております。わけても、現在進めております南部雨水一号幹線が完工いたしますと安全度は大幅に上昇いたしますので、信越本線横断樋管の敷設について JRとの協議をつめるなど、鋭意、事業の進捗に努めてまいります。

なお、今ほど申し述べました地区以外の対策につきましては、下水道雨水計画の拡充を基本に種々検討してまいります。また、丘陵地からの雨水は一気に流下するため、被災規模の拡大につながることを改めて警告してくれたのがこのたびの水害でした。そこで、上流に遊水効果を持つ調整池を整備することも合わせて考えてまいります。

ところで今回の水害、あるいは平成七年の新潟県北部地震の際には、エフエム新津の提供する情報が大きな役割を果たしました。こうしたことに鑑みて、事故等による放送の寸断を防ぐため新たに予備送信設備を設置することとし、これに関連する予算を計上したところであります。

次に、道路網の整備について申し述べたいと思います。

道路網の整備は市民の皆さんの暮らしに直結する重要課題でありますから、生活道路をはじめ、幹線道路網の整備を総合的に進めてまいります。中でも、磐越自動車道と国道四〇三号を結ぶ国道四六〇号は、優先度の最も高い道路と位置づけております。十一年度中に一部供用開始の見込みでありますが、四〇三号までの早期完成を関係機関に働きかけてまいります。また、これに関連いたしまして、四〇三号の四車線化工事につきましても早期着工を求めていく考えであります。

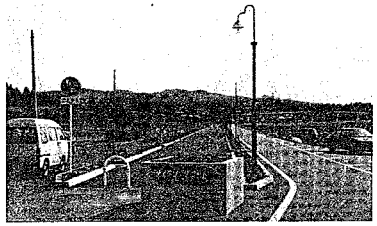
建設が進む国道460号（東バイパス）

市道の改良につきましては、特別養護老人ホーム「はさぎの里」の開所を視野に入れ、新町第七号七日町線の整備を進めるほか、緊急性等を勘案しながら、また、各地域の要望を踏まえまして順次計画的に取り組んでまいります。

さて、「道路」と申しますと、私たちはどの道路も「主役は車」と考えがちであります。実際これまで、交通量が増えればこれに対応する、言わば交通需要追従型の策がとられてきました。結果、車中心の画一的な道づくり、二酸化炭素による地球温暖化、窒素酸化物による酸性雨の発生、健康被害といった様々な見逃せない問題をもたらしています。

これらの問題解決のためには、徒歩、自転車、バス、鉄道、そして自家用車を総合的に組み合わせた交通システム、つまり、人と環境に優しい交通体系の確立が急務であるとの感を強くしているところであります。

こうした角度から研究を深め、また実現に努めてまいりましたパーク・アンド・ライドシステムでありますが、現在国土庁が中心となって、新潟都市圏における有効性、実現性等々について調査を進めております。推移を見守りながら、さらに努力してみたいと考えております。また、人優先の道づくりの観点から進めております新


快適なサイクリングロード

栄町地内のコミュニティ道路につきましては、地元の皆さんとともにモデル事業にふさわしい道を作りあげてまいります。

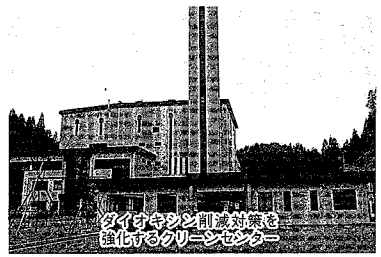
なお、新津市、小須戸町、田上町の一市二町で取り組んでおりますサイクリングロードは、新津地内は今年度で終了いたします。十一年度は小須戸地内を整備の予定でありますが、覚路津大通川の改修に合わせて、さらに拡充をはかる方向で考えてまいります。

次に、廃棄物対策であります。

大量消費・大量廃棄の文化からリサイクル・リユース文化への切り換えは、市民の皆さんの優れた感性も相まって着実に浸透しております。本年七月からは、新たにペットボトルを資源ごみとして回収することとしておりますので、他の資源ごみ同様、分別の徹底をお願いしたいと思います。

廃棄物処理は自治体の責務であります。しかし、いま大きな課題に直面しております。一つは、不燃物や焼却残渣を埋め立てる最終処分場が間もなく満杯になること、いま一つは、浄化槽汚泥が大幅に増え、老朽化が進む処理施設に大きな負担となっていることであります。

このため、最終処分場につきましては、焼却残渣を「エコパーク出雲崎」に搬入する一方で、新たな場所を確保すべく引き続き関係者の皆さんにご理解を求めていきたいと考えております。また、し尿処理施設につきましては、可能な限り現施設の延命に努めるとともに、新施設の建設に備えてできるだけ小さな処理量で済むよう、下水道供用区域内の約二十パーセントの未接続世帯解消に努めていく考えであります。


ダイオキシン削減対策を
強化するクリーンセンター

なお、こうした対応と並行いたしまして、焼却灰と汚泥の資源化の手法も探ってみたいと思っております。

次に、ごみ焼却施設におけるダイオキシン削減対策でありますが、法改正によって、平成十四年十一月末までに一定の対策を講じることが義務づけられました。当市の焼却施設につきましては、排出基準は一立米当たり五ナノグラム以下と定められておりますので、高温焼却、排ガスの低温化、窒素酸化物の低減、さらには活性炭入りの高表面積消石灰の吹き込みによって、一ナノグラム以下を目標に努力してまいります。合わせて、焼却炉の二十四時間稼働による削減対策も考えております。

このほか、廃棄物対策に関連する新規の施策といたしましては、本年七月一日から施行されます「ポイ捨て等防止条例」の意図するところを市民の皆さんからご理解いただくため、啓発活動を展開したいと考えております。

廃棄物の問題をはじめ昨今の地球環境に目を転じますと、最終的には「自然との共生」という考え方にたどり着きます。地球は人間だけのものではありません。にもかかわらず、人間はあまりにもこれを傷つけ過ぎてきました。基本的な考え方のところでも述べましたように、今こそ森に接し、森に学び、共に生きる作法を身につけなければならない時であると認識いたしております。

私は折にふれ、「森林文化」という言葉でこのことを市民の皆さんに語りかけてまいりました。幸いにして新津市は、八百種類以上の植物が生息する里山に恵まれております。現在、この里山を中心に取り組んでおります「緑化推進事業」などを通じて、また、「二十一世紀は循環・共生の百年」と

快適で安らぎが漂うまちに関する主な事業

●下水道整備事業（下水道事業特別会計）…19億9000万円

水害防止と、快適で住みよい生活環境づくりのため、下水道の整備を進めます。

●緊急用FM送信機購入費…240万円

災害時に備え、事故等による放送の寸断を防ぐため、エフエム新津のバックアップ送信設備を設置します。

●県施行街路事業負担金…6200万円

国道460号（東バイパス）等の建設費の一部を負担します。

●新栄町10号線ほかコミュニティゾーン形成事業…500万円

高齢者や子どもの安全に配慮した歩行者優先の道路を整備します。

●ふれあいの場づくり事業…6100万円

覚路津大通川の改修にあわせて、歩道や自転車道、せせらぎ、休憩施設などを整備します。

●ペットボトル回収事業…1098万円

七月からペットボトルの分別収集を開始します。

●ポイ捨て防止事業…315万円

空き缶や吸い殻等のポイ捨てと、犬のふん害防止について啓発活動を行います。

●里山ふれあい交流事業…300万円

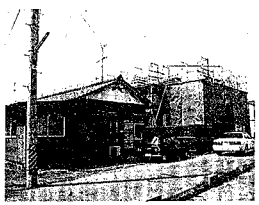
貴重な里山である新津丘陵で、森と親しむイベントを開催します。

●水と緑のネットワーク公園事業…2000万円

水と緑の遊歩道に隣接する幸清水公園と新栄町公園、山谷第一公園を整備し、遊歩道とネットワーク化します。

●市営住宅建替事業…2億7626万円

中新田と西島の老朽化した市営住宅を建て替えます。


建て替えが進む中新田市営住宅

※パーク・アンド・ライド・システム…自家用車と鉄道・バスなどの公共交通機関を複合的に利用する交通体系